

ごでら  
牛寺遺跡(本発掘調査B)

**所在地** 豊田市野見町一丁目地内  
(北緯35度4分23秒 東経137度10分22.18秒)

**調査理由** 矢作川河川改修

**調査期間** 平成30年12月～平成31年2月

**調査面積** 800㎡

**担当者** 酒井俊彦・鈴木恵介



調査地点(1/2.5万「豊田南」)

**調査の経過** 調査は国土交通省中部地方整備局豊橋河川事務所による矢作川河川改修に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成30年12月から平成31年2月にかけて実施した。過去の調査成果より、豊田市が昭和48年に実施した牛寺廃寺の調査地に隣接することから、古代寺院である牛寺廃寺に関連する遺構・遺物の出土も予想された。調査面積は800㎡である。

**立地と環境** 牛寺遺跡は、豊田市東山町付近から南西方向にのびる河岸段丘の先端付近に位置し、同じ河岸段丘上には南山畑遺跡、山の神古墳、市塚古墳など弥生時代から古墳時代の遺跡が連続する。また、豊田スタジアムを挟んで北側の河岸段丘上には高橋遺跡をはじめとする遺跡が多く存在する。調査対象地の現況は堤防内側の荒地であり、結果として近年の堤防の造成や周辺の道路整備等によって地形が大きく改変を受けていた。

**調査の概要** 調査は平成30年12月より開始した。調査区全体で想定以上に掘削深度が深く、排土処理を適切に行う必要上、調査区をA・B・C区に3分割し、調査区西側をA区、東側南半をB区、東側北半をC区(写真3)として調査を行った。

攪乱に含まれるものから、攪乱は昭和48年の豊田市による牛寺廃寺の調査後に受けたものと考えられる。

**遺構** 主な遺構は、溝(001SD、023SD)、掘立柱建物跡(024SB)がある。

001SD(写真1)は調査区西端で一部を検出した、長さ5.4m、幅2.7mを測る。出土遺物には常滑窯系甕、播鉢の破片が含まれるため、溝は中世後半以後に埋没したと考えられる。

023SD(写真2)は調査区北端から南方向に延び、調査区中央付近では検出できていないが西に向きを変えて001SDに連続していた可能性がある。また、愛知埋文2005年度調査区のSD01a・SD01bに連続する溝の可能性もある。出土遺物には近世の瓦片も包含する。

024SBは、A区014SK、015SK、B区025SK、027SK、036SKよりなる掘立柱建物跡である。柱間は桁行で約1.9m、梁間は4m。南へ続く可能性がある。昭和48年度の調査で検出された基壇状遺構の北西方向に十数メートルと近接し、015SKを除く4つの柱穴から、須恵器、瓦の破片が検出されていることから、牛寺廃寺に後続する時期に存在した可能性がある。

他の遺構の出土遺物には、中世陶器片(山茶碗)、瓦片、須恵器浄瓶頸部がある。

**まとめ** 本調査区では、古代から中世にいたる時期の遺構を確認した。また、堤防上の道路周辺がもっとも大きく攪乱を受けており、遺構面が削平されていた。堤防より離れるにしたがって攪乱は浅くなり、小土坑をはじめとする遺構は増加傾向にあった。将来的に調査が予定されている北側の隣接地域については、本調査区の断面で確認できる限り遺構面は残存していると想定される。

(鈴木恵介)

